



美しヶ丘自主防災会

NO.10

防災ニュース

報告

■4月2日防災お花見会開催

はじめての防災お花見会に約200人

晴天に恵まれた4月2日、鳥居公園で「防災お花見会」を開催しました。

昨年12月に完成した防災かまどベンチ3号基の火入れ式と機材使用訓練を兼ね、桜の元で地域コミュニティーを育むことを目的に開催しました。おでん、カレーをかまどベンチなどで湯煎したほか、非常食の赤飯、防災用一斗焚きのお釜を使って炊飯したご飯を提供しました。地域住民と近隣自治会から約200人の参加を得て、防災資機材の使用訓練の後、各支部のブースでは、コミュニケーションの輪がひろがり顔の見える関係づくりができました。

今年初めての試みとして、公園の一部に取り付けたLEDの提灯は、花見気分を盛り上げ、満開時には、連日夜間に点灯しました。



■その他の活動報告

- ・1月22日開催の美しヶ丘自治会総会において昨年の活動実績と今年度の活動計画を発表
- ・4月22日応急手当講習会を開催、『救命入門コース』に21人が参加
- ※7月には、『救命入門コース』修了者を対象に実技救命講習を開催する予定です。

■お知らせ

- ・5月27日（土）明神2丁目支部を対象に防災勉強会を開催



自治会ホームページで自主防災会の活動をご覧ください。 [美しヶ丘自治会](#) [奈良県王寺町](#) [検索](#)

■身近にできるわが家の防災【シリーズ3】

非常時のトイレ

災害時にまず必要なものは情報、次に食料品と水、そしてトイレです。避難所では常設のトイレが使えても使用人数が多すぎて詰まってしまうたり、仮設トイレも容量オーバーになっても、すぐに引き取りに来てくれるとは期待できません。トイレに行きたくないから水分摂取を控えるなどすれば、健康によいはずがありません。

今回は、水道や下水道が止まってしまった場合、自宅などの便器を活用した方法をご紹介します。



①便座を上げて、便器にゴミ袋をかぶせる



②便座を下ろし、便座にゴミ袋を二重にかぶせる



③新聞紙などをくしゃくしゃにして二重のゴミ袋内に敷き詰める

【準備するもの】

- ・ゴミ袋（45リットルくらい/中身が見えないよう黒が好ましい）・・・汚物を受ける
- ・専用凝固剤、消臭剤・・・使用後 汚物にふりかける
- ・密閉型汚物入れ・・・汚物を保管する
- ・新聞紙・・・汚物の水分をしみこませ、漏れを防ぐ
- ・その他：ウェットティッシュ・消毒スプレー（手洗い）、トイレトペーパーなど

■コラム■いまどきの防災

南海トラフ巨大地震の前に発生！内陸直下型大地震

活発な活動期に入った日本列島。大地震のたびに科学的知見が進んでいるように感じますが、実は活断層は2%しかわかっていません。私たちが知っている科学的知識は極めてわずかであると認識しておかねばなりません。南海トラフ巨大地震は30年以内に70%の確立で発生すると言われていています。奈良に津波は来ないから大丈夫・・・とっていませんか？

実は歴史的に見て、南海トラフ大地震の前後には大きな内陸地震が起きていました。安政の東海地震・南海地震（1854年12月23・24日）については、1854年7月に伊賀上野地震（M7 死者1800人）、1855年11月安政江戸地震（M7 死者5000～11000人）などが、昭和の東南海地震（1944年12月）・南海地震（1946年12月）については、1925年5月に北但馬地震（M6.8 死者428人）、1927年3月に北丹後地震（M7.1 死者2925人）、1936年2月に河内大地震（M6.4）、1943年9月に鳥取地震（M7.2 死者1083人）、1945年1月に三河地震（M6.8 死者2306人）、1948年6月福井地震（M7.1 死者3769人）など、M7以上の内陸直下型大地震が頻発しています。

また、「奈良は1300年間大きな地震がない」と常々注意喚起する河田恵昭氏（元京大巨大災害研究センター長、人と防災未来センター長）の言に従えば、大きなひずみのエネルギーがたまっているからこそ、奈良はかなり危険な地域だと、考えておかねばなりません。

ひずみがたまっているのは、奈良盆地東縁断層帯（京都盆地-奈良盆地断層帯南部）です。M7.4程度の地震が発生し、東側が西側に対し相対的に概ね3m程度高まると推定されます。過去の活動が十分に明らかではないので信頼性は低いですが、今後30年間の発生の可能性が、我が国の主な活断層の中では高いグループに属します。

また、M7.0～7.5程度の地震が発生すると推定される生駒断層帯も近くにあります。大地震は決して他人事ではありません。



資料：文部科学省地震調査研究推進本部より

（道下弘子）